

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105414
法人名	株式会社 ファミリーケア
事業所名	ファミリーケア垣生 グループホームいまづ
所在地	松山市西垣生町1184-6
自己評価作成日	H24年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 7 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の方の生活のレベルが、徐々に下がってきている為、その方一人ひとりにあった介護を目指し、職員同士で、こまめに情報の共有ができるように努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の近隣には市役所の支所や郵便局、交番、神社、小学校、スーパーなどがあり、地域の中心に位置している。代表者は同地域に居住し、利用者や家族、職員も地元出身者が多く、馴染みの関係が継続しており、地域に根ざした事業所となっている。常勤の看護師がいるため、地域の医療機関とも連携が取れており急変時や重度化にも対応できている。また看取りも積極的に取り組んでおり、利用者が住み慣れた地域で最期まで安心して過ごすことができる。開設時より「温」という理念を掲げ、家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活することができている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームいまづ
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	亀本 知子
評価完了日	24 年 6 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員一人ひとりが理念に沿った温かい介護の実現にむけ、日々のケアにあたります。	
			(外部評価) 開設時に職員全員で話し合い「温」を理念に掲げ、継続して暖かい家庭的な雰囲気の中で楽しく生活が送れるよう支援している。理念を玄関やリビングの見えやすい所に掲示し、職員全員で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の幼稚園と交流、近所のお祭りへの参加、マッサージにいられている、患者さんとの交流が図れている。	
			(外部評価) 法人が同地域で他の事業を展開し、代表者も地元に住居しており地域とのつながりは強い。利用者も地元出身者が7割を占めており家族を含め地域住民と顔見知りの方が多い。職員は利用者と一緒に近所の幼稚園と交流し、神社の行事にも参加して地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 垣生地区の話し合いの場に参加させてもらい、ホームの生活の様子を伝えた。入居の問合せや相談に、適宜対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 昨年6月から3回開催している。次回、6月は29日 開催予定	
			(外部評価) 運営推進会議の開催が、計画的に実施できないことが ある。参加者について、市の担当者や地域包括支援セ ンターの職員以外に家族や地域の方の参加を増やすよ う取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 西地区の勉強会や、運営推進会議のときに、相談して いる。困った事例は、介護保険課に定期的に報告、相 談し、アドバイスをもらっている。	
			(外部評価) 職員が地域包括支援センター主催の勉強会に参加した り、空き状況や見学等の連絡など、日頃から連携が取 れている。市担当者とはリスクマネジメントなどにつ いてアドバイスをもらったり相談しやすい関係が築か れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 見守りや、声かけで落ち着いていただけるようかか わっている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束を正しく理解するため定期的に勉強会 を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。転 倒の恐れがある利用者には、職員が声をかけて安全を 確保しながら一緒に歩くなど配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングや日々の申し送り時など、拘束や虐待について話し合う機会を持つように心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、該当する方はいないが、職員に機会があるごとに説明し、理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、入院、退去、利用料金、加算、看取り、(延命、緊急時)について、ホームの方針は、時間をとって説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方には、訪問時や電話などで日々の生活の様子を報告し、相談できる関係作りに努めている。	
			(外部評価) 代表者や利用者、家族は地元出身者が多く顔見知りの関係があるため、家族は意見や要望を代表者に言いやすい関係ができている。出された意見は代表者が管理者に報告し、話し合いを行なってその結果を家族に説明して理解を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) その時々、職員の体調や困っていることなど、話せる関係、信頼作りに努め、コミュニケーションを密にし、要望や、不満を聞くようにしている。 (外部評価) 職員の入れ替わりも少なく、管理者やユニットリーダーとコミュニケーションが取れており、日々のケアの中で意見を出したり、電話で相談できる関係ができている。出された意見は検討し運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有給や希望休など、できる限り職員の希望に添えるようしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ホーム内の研修がメインだが、ホーム外の研修や、社協主宰の勉強会に参加できている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 社協、包括が開催する研修に参加している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 今までの生活史や現在の状況など細かく聞き取りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に話し合いを行い、十分な聞き取りをし、入居後、暫定プランに反映できるようにしている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前訪問で伺った内容を元に、職員間で話し合うようにしている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ケアする側、される側という観点はず、みんなで協力し共に生活していけるよう心がけている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日ごろの生活の様子を来訪時や電話や手紙等で報告し、相談しながらケアを行っていくことで、家族の方にも協力をしてもらえるよう働きかけている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の家族が近所に暮らしている方もおり、面会も定期的に来てもらっている。近所の方や、知人の方の面会も定期的に来てもらっている。 (外部評価) 利用者や家族は互いに顔見知り、面会で声をかけ合ったり、施設1階の療養マッサージを利用した後に談笑したりするなど、馴染みの関係が継続している。事業所の窓から見える地域の神社の行事にも、利用者や家族で積極的に参加し楽しく過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) おやつや食事の時間は職員も一緒に入り、会話を楽しむようにしている。仲の良い利用者のかた同士で、居室の行き来等が見られる	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了した方の家族の方が、時々ホームに遊びに来てくれている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、表情や言葉から把握するよう努めている	
			(外部評価) 職員は日常的に利用者の情報をメモで残し、大事な事柄は申し送りノートに記入し共有している。訴えの少ない利用者については表情からくみ取ったり、家族から情報を得て利用者の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居の時に、それまでの生活の様子を伺って、ホームに入ってから、それまでの生活に沿って日々の暮らしが出来るよう支援している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝、バイタルチェックを行い、その日の体調や状態にあわせ声かけを行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者、ご家族の方の要望をふまえ、職員で話し合いをし、計画作成担当者が、介護計画を作成している。	
			(外部評価) 計画作成者が家族から面会時や電話で要望等を聞き取り、職員の意見も聞きながら介護計画を作成している。定期的には3か月に1回、大きな見直しが必要になった時は随時、カンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子の変化は、生活記録に記入している。申し送りノートや生活ノートにも記入し、職員間での情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や、家族の方の状況で通院の送迎を行っている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 訪問美容のサービスを利用している。 運営推進会議には、民生委員の方や近所の方に参加いただき交流が出来るようになった	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) いままでに、かかっていた医療機関に引き続き通院し ている方もいるが、特に無い方は、3つの医療機関か ら選択していただいている	
			(外部評価) 利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診を支 援している。基本的には家族が付添っての定期受診で あるが、困難な方には訪問診療を紹介している。複数 の医療機関と密に連携を取って、診療内容を関係者が 共有し安心して医療を受けることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職を配置している。毎日のバイタル測定を行い健 康状態や状態の変化などの支援を行えるようにしてい る	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、情報提供書を作成し、医療機関に提出して いる。入院後は、定期的にお見舞いに行っている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の方の意向を伺い、主治医の意見をふまえ た上で職員で話し合いを行い方針を考えている	
			(外部評価) 入居時に看取りについて利用者と家族に説明し、要望 に沿って支援している。主治医と管理者、看護師、職 員全員が協力し看取りを行っている。家族との信頼関 係を大切にし、状況に応じて話し合いを重ね、安心し て納得できる終末期を送れるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に救急法の勉強会を行っている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力をえて、年に2回、訓練を行っている。災害にそなえて備蓄リストの作成や、定期的に業者の方に設備の点検をしてもらっている (外部評価) 事業所で年2回防災訓練を実施し、3月には地域の防災訓練に参加しAEDの使い方や炊き出しを体験した。災害時には法人のタクシー会社の協力を得られることになっている	訓練後に「明日起こるかもしれない」という想定で、職員全員で問題点について話し合いをすることが望ましい。地域の協力体制について、マニュアル化することに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) そのかたの気持ちを第一に考えれるよう、ホームの理念である「温」＝暖かいケアを目標に日々のケアにあっている (外部評価) 職員は一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮し、特に排泄時などの声かけには注意を払っている。	利用者の気持ちを汲み取り、さりげないケアや自己決定をしやすいよう声かけをし、内容によっては場所を変えるなど、職員全員が誇りやプライバシーについて話し合う時間を設け、よりいっそう具体的に確認し合う取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) いくつかの選択肢を用意し、その中から選んでもらうようにしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の大まかな流れは決まっているが、その日の体調や状態をみて、声かけをしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に散髪に来てもらい、個人の希望で、カットやカラー、パーマなどあててもらっている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下膳やテーブル拭きなど、できることをしていただいている	
			(外部評価) ユニット毎に利用者の希望を聞いて、職員が献立を立てている。魚は地域の鮮魚店で、他の食材は毎日利用者と一緒に近くのスーパーで購入し、国産で旬の物を温かいうちに提供しよう心がけている。食事の形態や量は個別に対応し、職員も一緒にテーブルを囲み楽しい食事の時間としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々にあった量や形態で食事を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る方は、声かけを行い、出来ない方は介助している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを職員が把握し、時間を見て、トイレの声かけやおむつ交換をおこなっている	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けて支援している。オムツ使用の利用者がトイレで排泄できるようになったケースもある。体調不良等で重度化する利用者も増えているが、個別の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) バナナやヨーグルト、お芋、ごぼうなど繊維の多い食べ物の提供している 水分量にも注意している	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間や入浴日の希望など聴くようにしている	
			(外部評価) 毎日午後に2～3名が入浴し、2日に1回程度入浴できるよう支援している。終末期にある利用者も数名の職員が介助し、個別の支援をしている。入浴が苦手な方にも声かけ等で足浴・陰部洗浄・清拭を行って対応している。利用者の状態に合わせて、気持ち良く入浴ができるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人のペースで居室で過ごされている 昼夜逆転しないよう気をつけている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の内容が変わったときは、申し送りノートに記入し、職員全員で共有できるようにしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の下ごしらえや、洗濯物など、動ける方が協力して行ってくれている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所のスーパーに、その日の体調や、天候の状態をみて、買い物に出掛けている	
			(外部評価) 菊花展など普段行けない所に出かけているが、重度化に伴い遠出が困難な方もいる。花見や神社の行事への参加、幼稚園への訪問など近隣への外出に努めている。日常的には、買い物やゴミだし、郵便局へ行くなど、職員と一緒に出かけている。線香をあげに自宅に帰るなど希望に沿った個別の外出も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の方の了解のもと、自分でお金を管理されている方もいる。ホームで預かっている方も、買い物に出た際は、自分で精算してもらっている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の方に手紙を書いたり、遠方の家族に連絡され近況を報告されている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホールの電気は、明るすぎないように、注意している。 ホールの温度もその都度、寒くないか確認し、利用者の方の適温にあわすようにしている	
			(外部評価) 事業所は施設の2階にあり、玄関を入ると左右対称にユニットが配置され自由に行き来できるようになっている。共用空間には、毎月、カレンダーや季節に合わせた絵画を作成して飾り、穏やかに過ごせるよう配慮している。隣敷地に有料老人ホームを建設中で、暗くならないよう天窓を検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアに2箇所ソファを置き、仲の良い利用者で過ごせるようにしている	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 仏壇や棚、テレビなど、思い思いのものを持ち込まれている	
			(外部評価) 居室には利用者が使い慣れた布団やテレビを持ち込み、自由に配置して落ち着いて過ごすことができる。毎朝、できる方は職員と一緒に掃除をして、清潔で気持ちよい空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室のドアに名前を貼ったり、目印をつけるなどしている	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105214
法人名	株式会社 ファミリーケア
事業所名	ファミリーケア垣生 グループホームいまづ
所在地	松山市西垣生町1184-6
自己評価作成日	H24年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 7 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人ひとりが理念である「温」を目指し家庭のぬくもりあるサービスが提供出来る様に日々努力しています
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近隣には市役所の支所や郵便局、交番、神社、小学校、スーパーなどがあり、地域の中心に位置している。代表者は同地域に居住し、利用者や家族、職員も地元出身者が多く、馴染みの関係が継続しており、地域に根ざした事業所となっている。常勤の看護師がいるため、地域の医療機関とも連携が取れており急変時や重度化にも対応できている。また看取りも積極的に取り組んでおり、利用者が住み慣れた地域で最期まで安心して過ごすことができる。開設時より「温」という理念を掲げ、家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活することができている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいまづ

(ユニット名) うめ

記入者(管理者)

氏名 河野 亜紀

評価完了日 24 年 6 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員一人ひとりが理念に沿った温かい介護の実現にむけ、日々のケアにあたります。	
			(外部評価) 開設時に職員全員で話し合い「温」を理念に掲げ、継続して暖かい家庭的な雰囲気の中で楽しく生活が送れるよう支援している。理念を玄関やリビングの見えやすい所に掲示し、職員全員で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 天気のいい日には、近所のスーパーに買い物に行ったり、近隣の幼稚園と交流を持っている。	
			(外部評価) 法人が同地域で他の事業を展開し、代表者も地元に住居しており地域とのつながりは強い。利用者も地元出身者が7割を占めており家族を含め地域住民と顔見知りの方が多い。職員は利用者と一緒に近所の幼稚園と交流し、神社の行事にも参加して地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 垣生地区の話し合いの場に参加させてもらい、ホームの生活の様子を伝えた。入居の問合せや相談に、適宜対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 昨年6月から3回開催している。次回、6月は29日開催予定	
			(外部評価) 運営推進会議の開催が、計画的に実施できないことがある。参加者について、市の担当者や地域包括支援センターの職員以外に家族や地域の方の参加を増やすよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 西地区の勉強会や、運営推進会議のときに、相談している。困った事例は、介護保険課に定期的に報告、相談し、アドバイスもらっている。	
			(外部評価) 職員が地域包括支援センター主催の勉強会に参加したり、空き状況や見学等の連絡など、日頃から連携が取れている。市担当者とはリスクマネジメントなどについてアドバイスもらったり相談しやすい関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 見守りや、声かけで落ち着いていただけるようかわっている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束を正しく理解するため定期的に勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒の恐れがある利用者には、職員が声をかけて安全を確保しながら一緒に歩くなど配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングや日々の申し送り時など、拘束や虐待について話し合う機会を持つように心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、該当する方はいないが、職員に機会があるごとに説明し、理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、入院、退去、利用料金、加算、看取り、(延命、緊急時)について、ホームの方針は、時間をとって説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方には、訪問時や電話などで日々の生活の様子を報告し、相談できる関係作りに努めている。	
			(外部評価) 代表者や利用者、家族は地元出身者が多く顔見知りの関係があるため、家族は意見や要望を代表者に言いやすい関係ができている。出された意見は代表者が管理者に報告し、話し合いを行なってその結果を家族に説明して理解を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) その時々、職員の体調や困っていることなど、話せる関係、信頼作りに努め、コミュニケーションを密にし、要望や、不満を聞くようにしている。 (外部評価) 職員の入れ替わりも少なく、管理者やユニットリーダーとコミュニケーションが取れており、日々のケアの中で意見を出したり、電話で相談できる関係ができている。出された意見は検討し運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有給や希望休など、できる限り職員の希望に添えるようしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ホーム内の研修がメインだが、ホーム外の研修や、社協主宰の勉強会に参加できている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 社協、包括が開催する研修に参加している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 今までの生活史や現在の状況など細かく聞き取りをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に話し合いを行い、十分な聞き取りをし、入居後、暫定プランに反映できるようにしている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前訪問で伺った内容を元に、職員間で話し合うようにしている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ケアする側、される側という観点はず、みんなで協力し共に生活していけるよう心がけている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日ごろの生活の様子を来訪時や電話や手紙等で報告し、相談しながらケアを行っていくことで、家族の方にも協力をしてもらえるよう働きかけている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の家族が近所に暮らしている方もおり、面会も定期的に来てもらっている。近所の方や、知人の方の面会も定期的に来てもらっている。 (外部評価) 利用者や家族は互いに顔見知り、面会で声をかけ合ったり、施設1階の療養マッサージを利用した後に談笑したりするなど、馴染みの関係が継続している。事業所の窓から見える地域の神社の行事にも、利用者や家族で積極的に参加し楽しく過ごせている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) おやつや食事の時間は職員も一緒に入り、会話を楽しむようにしている。仲の良い利用者のかた同士で、居室の行き来等が見られる	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了した方の家族の方が、時々ホームに遊びに来てくれている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、表情や言葉から把握するよう努めている	
			(外部評価) 職員は日常的に利用者の情報をメモで残し、大事な事柄は申し送りノートに記入し共有している。訴えの少ない利用者については表情からくみ取ったり、家族から情報を得て利用者の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居の時に、それまでの生活の様子を伺って、ホームに入ってから、それまでの生活に沿って日々の暮らしが出来るよう支援している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝、バイタルチェックを行い、その日の体調や状態にあわせ声かけを行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人と家族さんの要望を取り入れ計画作成担当者がケアプランを作成している。	
			(外部評価) 計画作成者が家族から面会時や電話で要望等を聞き取り、職員の意見も聞きながら介護計画を作成している。定期的には3か月に1回、大きな見直しが必要になった時は随時、カンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子の変化は、生活記録に記入している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や、家族の方の状況で通院の送迎を行っている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 訪問美容のサービスを利用している。 運営推進会議には、民生委員の方や近所の方に参加いただき交流が出来るようになった	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) いままでに、かかっていた医療機関に引き続き通院し ている方もいるが、特に無い方は、3つの医療機関か ら選択していただいている	
			(外部評価) 利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診を支 援している。基本的には家族が付添っての定期受診で あるが、困難な方には訪問診療を紹介している。複数 の医療機関と密に連携を取って、診療内容を関係者が 共有し安心して医療を受けることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職を配置している。毎日のバイタル測定を行い健 康状態や状態の変化などの支援を行えるようにしてい る	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、情報提供書を作成し、医療機関に提出して いる。入院後は、定期的にお見舞いに行っている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の方の意向を伺い、主治医の意見をふまえ た上で職員で話し合いを行い方針を考えている	
			(外部評価) 入居時に看取りについて利用者と家族に説明し、要望 に沿って支援している。主治医と管理者、看護師、職 員全員が協力し看取りを行っている。家族との信頼関 係を大切にし、状況に応じて話し合いを重ね、安心し て納得できる終末期を送れるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に救急法の勉強会を行っている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力をえて、年に2回、訓練を行っている。災害にそなえて備蓄リストの作成や、定期的に業者の方に設備の点検をしてもらっている (外部評価) 事業所で年2回防災訓練を実施し、3月には地域の防災訓練に参加しAEDの使い方や炊き出しを体験した。災害時には法人のタクシー会社の協力を得られることになっている	訓練後に「明日起こるかもしれない」という想定で、職員全員で問題点について話し合いをすることが望ましい。地域の協力体制について、マニュアル化することに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) そのかたの気持ちを第一に考えれるよう、ホームの理念である「温」=暖かいケアを目標に日々のけあにあっている (外部評価) 職員は一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮し、特に排泄時などの声かけには注意を払っている。	利用者の気持ちを汲み取り、さりげないケアや自己決定をしやすいよう声かけをし、内容によっては場所を変えるなど、職員全員が誇りやプライバシーについて話し合う時間を設け、よりいっそう具体的に確認し合う取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) いくつかの選択肢を用意し、その中から選んでもらうようにしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の大まかな流れは決まっているが、その日の体調や状態をみて、声かけをしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に散髪に来てもらい、個人の希望で、カットやカラー、パーマなどあててもらっている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下膳やテーブル拭きなど、できることをしていただいている	
			(外部評価) ユニット毎に利用者の希望を聞いて、職員が献立を立てている。魚は地域の鮮魚店で、他の食材は毎日利用者と一緒に近くのスーパーで購入し、国産で旬の物を温かいうちに提供しよう心がけている。食事の形態や量は個別に対応し、職員も一緒にテーブルを囲み楽しい食事の時間としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々にあった量や形態で食事を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る方は、声かけを行い、出来ない方は介助している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを職員が把握し、時間を見て、トイレの声かけやおむつ交換をおこなっている	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けて支援している。オムツ使用の利用者がトイレで排泄できるようになったケースもある。体調不良等で重度化する利用者も増えているが、個別の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) バナナやヨーグルト、お芋、ごぼうなど繊維の多い食べ物の提供している 水分量にも注意している	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間や入浴日の希望など聴くようにしている	
			(外部評価) 毎日午後に2～3名が入浴し、2日に1回程度入浴できるよう支援している。終末期にある利用者も数名の職員が介助し、個別の支援をしている。入浴が苦手な方にも声かけ等で足浴・陰部洗浄・清拭を行って対応している。利用者の状態に合わせて、気持ち良く入浴ができるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人のペースで居室で過ごされている 昼夜逆転しないよう気をつけている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の内容が変わったときは、申し送りノートに記入し、職員全員で共有できるようにしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の下ごしらえや、洗濯物など、動ける方が協力して行ってくれている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所のスーパーに、その日の体調や、天候の状態をみて、買い物に出掛けている	
			(外部評価) 菊花展など普段行けない所に出かけているが、重度化に伴い遠出が困難な方もいる。花見や神社の行事への参加、幼稚園への訪問など近隣への外出に努めている。日常的には、買い物やゴミだし、郵便局へ行くなど、職員と一緒に出かけている。線香をあげに自宅に帰るなど希望に沿った個別の外出も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の方の了解のもと、自分でお金を管理されている方もいる。ホームで預かっている方も、買い物に出た際は、自分で精算してもらっている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の方に手紙を書いたり、遠方の家族に連絡され近況を報告されている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホールの電気は、明るすぎないように、注意している。 ホールの温度もその都度、寒くないか確認し、利用者の方の適温にあわすようにしている	
			(外部評価) 事業所は施設の2階にあり、玄関を入ると左右対称にユニットが配置され自由に行き来できるようになっている。共用空間には、毎月、カレンダーや季節に合わせた絵画を作成して飾り、穏やかに過ごせるよう配慮している。隣敷地に有料老人ホームを建設中で、暗くならないよう天窓を検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアに2箇所ソファを置き、仲の良い利用者で過ごせるようにしている	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 仏壇や棚、テレビなど、思い思いのものを持ち込まれている	
			(外部評価) 居室には利用者が使い慣れた布団やテレビを持ち込み、自由に配置して落ち着いて過ごすことができる。毎朝、できる方は職員と一緒に掃除をして、清潔で気持ちよい空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室のドアに名前を貼ったり、目印をつけるなどしている	